

# MORIOKA YMCA NEWS

## 盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2011年12月号 キッズクリスマス



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1  
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

## 私にとってのYMCA

原田麻由（看護師・リーダーOG）

YMCAは子どもが成長できる場所であるのと同じぐらい、リーダーも成長できる場所だと思います。盛岡YMCAで過ごした3年間の中で感じたことは今でも私にたんさんの気づきを与えてくれます。

初めてYに連れてきてもらった時、楽しそうにじゃれ合うリーダー達のキャラクターの濃さ以上に（笑）、自分と同年代の人達が時間を使って、頭を使って、子ども達のために活動している姿勢に衝撃を受けました。今まで自分のことばかり考えていた私にとって、子ども達を楽しませようと行動するYのリーダー達はとてもまっすぐに映りました。こんな風になりたい！そう思ってたし始めましたが、実際は難しかったです。時間や段取りばかり気にしてしまったり、子どもにもその場しのぎの言葉をかけてしまったり・・・何のために、誰のためにやっているのか？結局は自分のことばかり考えているのではないのか？疑問に思っては悩みを繰り返していたような気がします。

大学4年最後のスキーキャンプで受け持ったグループの子の中に、1人下を向いて不安そうにしている子がいました。この子

しめるかな？と心配になりましたが、それ以上に絶対楽しませてやる！とリーダー魂に火が着きました。キャンプ最終日、帰りのバスから降りてお母さんに向けよったその子は笑顔でした。それを見たお母さんも「あーいい顔で帰ってきた。」と笑顔になりました。よし！と心の中でガッツポーズをしました。何年も、しかも毎日のようにYに通っていたけれど、誰かのために、自分が少しでも行動することができた実感できたのはこれが初めてでした。やっ、と、初めてYに来たときに見た先輩リーダー達に少しでも近づくことができたかなと思いました。

卒業して2年、今私は重症心身障害児（者）が生活する施設で働いています。重症心身障害児（者）は知的にも身体的にも重度の障害のある人たちで、自分の意思を思うように表出することが難しい人が多いです。あれやっ、これやっ、と言わない分、自分のペースで仕事をしてしまい、「ケア」が「作業」になっているのではないかと感じる場合があります。そんな時は、一度立ち止まって考えようと思います。何のために、誰のためにやっているのかと。

# ★ キッズクリスマス in 内丸教会 ★

12月10日(土)、盛岡YMCAでは18人の子どもたちと8人のリーダーたちがひと足早くクリスマスを祝ってしまいました！初めはキャンドルサービス。YMCAニュースの“こぼれ種”でおなじみ、内丸教会の牧師、中原先生にサンタにまつわるお話を聞かせていただき、厳かな雰囲気ですスタートしました。そして、キャンドルサービスの雰囲気とは一変、ゲームになると子どもたちのテンションは急上昇!!!じゃんけん列車やクイズをしたり、リーダーツリーを美しく豪華に(?)飾りつけました。そして、お待ちかねのプレゼント交換☆「あわてんぼうのサンタクロース」の歌を歌いながら、プレゼントを回していきました。誰の、どんなプレゼントが自分に回ってくるのか、自分のプレゼントは誰にわたるのか・・・みんな、ハラハラドキドキです。近くに座っている子と見せ合いっこをしてそれぞれのプレゼントで話が盛り上がりました。

しかし、楽しい時間はすぐに終わってしまうもの。そろそろ帰り支度をしようとしていると・・・！突然、サンタクロースがやってきました！！この日をクリスマスだと勘違いして来てしまったらしいのです。あわてんぼうのサンタクロースは本当にいるんですね(笑)。そのサンタさんは、間違えていることを教えてくれたお礼にプレゼントをくれました！その中身は・・・？きっと気持ちがいっぱい詰まったものだったはずです。

次にサンタさんが来るのはクリスマスの日！みんなすでに、プレゼントの願いは完璧です☆ (家村)



↑キャンドルサービス



全員で声  
→  
そろえて解答！  
「せーの！」



↑プレゼントを開ける瞬間もドキドキ!!



リーダーツリー  
の飾りつけ中  
↓

→  
サンタクロース登場!!!



## 11月サンテースクール ～ハンコづくり～

11月13日(日)に、前潟センターにてサンテースクールを行いました。今回の内容は「世界にひとつだけのオリジナルハンコを作ってみよう♪」でした。参加者は、子ども5人にスタッフ・リーダーが5人。少人数でのんびりと会話をしながらハンコ作りを楽しみました。今回ハンコとして使う材料は消しゴムです。作り方は、まずどんな絵や文字をハンコにしたいか決めます。次にそれを濃く鉛筆で紙に書き、消しゴムを強く押し付けて、絵や文字を消しゴムに写します。あとはインクの出なくなった先が尖ったペンやカッターなどで削ったり掘ったりして仕上げていきます。途中、試しにハンコにインクを付け、紙においてちゃんと絵や文字が出るか確かめ、改良していきます。自分で納得がいくようになったら完成!!作業中は、お互いのハンコを見せ合って楽しんだり、突如「どっちがたくさんハンコをおせるかバトル」が始まったりと、みんなでハンコ作りをするからこそその遊びや面白さ、楽しさが生まれたように思いました。消しゴムハンコは家でも簡単に作れるので、ぜひ作ってみてくださいね♪次回は2012年の2月12日(日)「みんなでレッツバレンタイン★パーティー!!!」です。みんなの参加を待ってます♪



高橋みどり  
(ダダリーダー：盛岡大学文学部社会文化学科3年)

## 11月アドベンチャー ホクホク焼き芋をたべよう!

11月27日(日)、中津川河川敷にて焼き芋を行いました。はじめは、リーダーが扮する「じゃがいもまん」たちにさつま芋を盗まれてどうしようかと思ったけど、みんなで協力して芋を取り戻すことに成功しました!!

盛岡城跡公園や中津川河川敷でもたくさん遊んだし、何よりホクホクホクの焼き芋を無事に食べることができて本当に良かったね♪ (家村)



# 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 12月報告書

## ○富士山ツアー

12月6日から8日までの2泊3日で富士山ツアーを行いました。宮古湾の一番奥に位置する赤前地区という宮古市内でも被災の大きい地区があります。その地区のお年寄りを対象にツアーを行い、25名の参加者の方と共に富士山周辺で色々な場所を訪れました。

6日の朝宮古を出発しバスと新幹線を乗り継ぎ9時間かけて東山荘に到着しました。行きも帰りも移動に一日かかってしまいますが、道中はゲームあり、歌あり、おしゃべりありととても楽しく笑いが絶えない場となり、とてもたのしく過ぎました。2日目の朝、東山荘は曇りで富士山を眺めることができずガッカリしていた皆さんでしたが、朝食が終わった後にある参加者の方が外に出て、てっぺんだけ雲に隠れた富士山を見て「富士山だ！」の一声で雰囲気が一転、みんな富士山を眺めて、写真を撮って、子どものようにはしゃぎ嬉しそうな姿を見ることができました。富士山YMCAでは昼食を用意していただき、バーベキューを美味しく頂きました。スペシャルメニューのシカ肉も出していただき、参加者の一人は「やめられない・・・」とみなさんが散歩に出られた後もシカ肉のスペアリブも食べていました。3日間笑いが絶えず、最後まで皆さん笑顔で過ごされている事が印象的でした。多くの参加者はキャンプが終わった時の子どもたちのように「まだ帰りたくない。」と言っていました。

今回のツアーでは、普段生活している被災地の中に建つお家や仮設住宅から出て気持ちをリラックスさせて楽しんで頂くことをねらいに行いました。ツアー後に仮設住宅に住むある参加者の方のお家を訪問させていただいた時に、「これが私の全てだよ」と4.5畳1部屋のお家の中を見せてくれました。その時に、「仮設にいと1人だから、誰とも話さない。今回楽しかったのはいろんな人と話ができたことだ。そして今回こんなに楽しいことがたくさんできてあなたたちYMCAと出会うことができてよかった。」とおっしゃっていました。



→ ももたろうさんも富士宮焼きそばにチャレンジ



→ 朝の富士山に皆さんはしゃぎ



← 白糸の滝の前で記念撮影

富士山YMCAで集合写真



← 夜ののしみ会



↑ 富士山YMCAのバーベキューも大人気!

宮古での活動実績  
 ☆受益者数 (11月末日のべ人数)  
 ☆ボランティア数 17959人  
 7309人

## 情報コーナー

### 1月の予定

- ★1月6日(金)～8日(日)  
宮古フレンド・シップキャンプ  
(於: 田沢湖スキー場)  
※宮古の小学生が対象です
- ★1月7日(土)～10日(火)  
サッカー合宿  
(於: 青森県 岩木スポーツセンター)
- ★1月15日(日)  
アドベンチャー1月活動①  
「日帰りスキー」  
(於: 八幡平リゾートスキー場)
- ★1月29日(日)  
アドベンチャー1月活動②  
「日帰りスキー」  
(於: 八幡平リゾートスキー場)

### 2月の予定

- ★2月5日(日)  
アドベンチャー2月活動  
「雪にまみれろ! (雪遊び)」  
(於: 小鹿牧場)
  - ★2月12日(日)  
サンデースクール  
「バレンタインパーティー」  
(於: おでって5F生活アトリエ)
  - ★2月18日(土)～19日(日)  
スキー&雪まつり  
(於: 田沢湖スキー場)
  - ★2月26日(日)  
フットサル大会  
(於: 盛岡大学体育館)
- \* YMCA 休館日 \*  
12月30日(金)～1月3日(火)

- 東日本大震災被災地支援募金・献品  
小林茂元、新里ちえ子、伊藤真一郎、齋藤凌太、松尾聡子
- 維持会費  
西村隆太、澤瀬理、金子節子、中野泰希、齋藤凌太、永井ザビエ、重石桂司、布川雅樹、中原真澄、越前谷洋子、小林茂元、水田賢次、井上修三、井上優子、井上浩太郎、新里ちえ子
- 寄付金  
東京外国語大学テニス部OB、西村隆太、布川雅樹、中原真澄、越前谷洋子
- 国際協力募金  
一戸咲、新里ちえ子、杉本一郎、伊藤光、伊藤恵嗣、伊藤雄基、鶴丹谷三千代、大関靖二、伊藤克見、工藤泰、宮野桐次、千葉代子、川俣省吾

## 感謝

2011年度11月1日～  
 12月8日現在 順不同・敬称略

## JCCNC主催心のケア②

### “高校でのカウンセリング”

松尾 聡 (白百合学園高等学校教員)



今回は、ガリレオ高校のカウンセリングについて紹介します。

ガリレオ高校は、市内に16ある公立高校の一つである。生徒数は2100人おり、男子の方が多。地域的に東洋人が多く、中国人や日本人、そしてラテン系、アフリカ系、白人の順である。1979年より移民に関する法律が変わり、家族で暮らすことが可能となった。一方で思春期の問題も多く報告されるようになった。子どもたちはクリニックには来院しながらない傾向があり、それは65%を占める東洋人の「恥」の文化とも関係があると考えられた。そこで学校を中心にカウンセリングを行うことを考えた。

昨年度は800人がカウンセリングをうけた。多くは教師やカウンセラーから勧められてくる。授業の中でエッセーや作文を書いたときに家庭内の問題など発見することも多い。そこで個人的に話し合うだけでなく、家族やグループカウンセリングを行うこともある。社会的なこと、家族、いじめなど内容は多岐にわたっている。

学校や市の取り組みについて副校長先生から説明があった。学校内の人材で災害時のプランを作成している。市で作成したものに追加して火事、地震の際のマニュアルを学校独自のもので、疫病発生の場合にもどのように体育館を使用するかなど話し合い、毎年独自のもので責任者名を変えて作成している。

カウンセリングチームでは、RAMS (Richmond Area Multi-Services)から派遣されている心理士もいる。複数の学校で、カウンセリングだけでなく医療ケアやソーシャルワークのインターン、家族(夫婦)のセラピーを行うと同時に訓練プログラムも行っている。アセスメントを行い、カウンセリングが必要かどうか、短・長期のカウンセリング、グループのカウンセリング、親や教師のカウンセリング、トレーニング訓練などで効果があらわれている。地区は、低所得者が多く、ギャングと呼ばれる生徒も多くなり、トラウマや自己喪失など複数で行っても多くの時間が解決に必要でありセラピストの負担が増大している。

今年度はグループで解決法を探す方法を試した。それまで生徒は自分の経験を感情としてあまり外に出そうとしない傾向にあった。話し合いを行うことで、互いの感情がわかりあえるようになり、分かち合いができるようになる。そうすると泣いたりすることもあり、感情が出てくるのは良い経験であったと考えている。グループを作る前には、十分に個人の面接を行いグループができる段階かを見極める必要がある。そして個人の安全やニーズが確保できるかを確認し、場合によっては援助団体からも協力を得ることがある。ディブリーフィングは、トラウマを呼び起こすこともあるので行っていない。

カウンセリングの内容については、守秘義務があり共有はできない。自殺のリスクがあるときや他人を傷つける恐れが大きいとき、性的暴行などについては共有するようにしている。悩んでいるように見える生徒へのアプローチについては、学校が始まるときに集会のときなどを利用して、いつ来てもよいことなどを伝えている。アジア人の学生は、先生にすすめられると相談に来るのが容易になることもわかったので先生への教育も心がけるようにしている。先生のカウンセリングが生徒との橋渡しにもなっている。



### こぼれ種⑬ 「Let It Be」

日本基督教団内丸教会牧師 (元日本YMCA同盟 主事)

中原真澄

「レット・イット・ビー」というと、ポール・マッカートニーがつくったビートルズの有名な1曲だということは、ご存知でしょう。

「なすがままに」と日本語に訳され、ポールが14歳の時に亡くなった母Maryのことを偲んでつくった歌だと言われています。でも、この歌

の題“Let It Be”は、実は聖書の中の一句で、イエスの母マリアが天使ガブリエルから妊娠を告げられる有名な「受胎告知」の場面に出てくる彼女の言葉なのです。

イエスは聖書によると、父親が誰か分からない「庶子」として生まれました。敬虔・従順に生きてきた少女マリア(まだ十代半ばだったでしょう)が突然、妊娠する事態に陥ります。「どうしてこんな事がこの私に!？」と訴えた彼女への天使の答えが「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む(神さまの特別な力と守りがあなたと共にある)。<だから>生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」という答えでした。「どうして」というマリアの問いに直接には答えず、でも、あなたのその思い掛けない苦難と窮状の中に、神の力と守りが共にある。苦難と窮状にあるあなた<だから>、特別の子を産み育てる役割があなたに与えられているのだ…という答えなのです。マリアはその声にごう応えました“Let it be to me according to your word” (RSV)。

自分の思い通りにならない、どうしてこんな事が! そんな叫びが溢れている世界です。マリアもその一人でした。でも、そういう苦しみと悲しみの中でお「私はあなたを包み、守っている。安心なさい。そんなあなた<だから>こそ、あなたにしか分からないし、出来ない役割があるよ」という声を聞き取る時、そこに希望を見出すことが出来るのです。クリスマスとは、このような絶望の中になお輝く希望を見出す季節です。マリアと一緒に“Let It Be”と答える私たちでありたいと思います。

「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように」。

(ルカによる福音書1章38節)

### ～表紙の写真より～



プレゼント交換で渡ったプレゼントの中身を確認中!

「何が入っているかな? 誰が持ってきたものなのかな?」

いろんなことを考えながら、そつと袋の中をのぞき込みます。周りの子も興味津々! いったい何が入っていたのかな? そして、自分のプレゼントが誰のものへ渡ったのか…。

「喜んでもらえたかなあ?」って、また気になっちゃう。

こんなワクワクドキドキする緊張感も、プレゼント交換の醍醐味の1つですね!

(家村)